

担当テーマ：いのちを拡げる

シグネチャーパビリオン

「いのちの未来」

石黒 浩

大阪大学教授、ATR石黒浩特別研究所客員所長



技術と融合することにより、 いのちの可能性を拡げる

70年大阪万博から50年を経て、生きたい「いのち」を
自ら設計することが人類の未来ではないだろうか

- 技術が支え技術が設計する「いのち」
- 技術（ロボット）に宿る「いのち」

人工臓器、遺伝子操作、人間らしいロボット、AIによって、人間の定義を拡張し、人間を進化させる科学技術。人間は動物のような生物的進化の方法だけでなく、科学技術による進化の方法を持つ。それが人間を人間たらしめている。これからの人間は、さらに科学技術を発展させ科学技術と融合しながら、「いのち」の可能性を飛躍的に拡げ、その多様な価値観と幸福感で人間自身や人間社会、そしてそれを取り巻く環境や生態系を発展させていく。本パビリオンは「いのち」（人間・社会）の新たな在り方を創造し、展示する。

- パビリオン展示 -

人間とロボットの
境界がつかなくなる世界

物理空間、データ空間、物理的な体、データとしての体、寿命、記憶、様々な制約から解放された人を超越した存在としてのアンドロイドロボットが、光と水の空間に存在し、

「いのち」について語りかける。

アンドロイドロボットの視点、来館者の視点、バーチャルで入っているアバターの視点が交錯し、来館者は、「新しいいのち」について気づく。

- パビリオン展示 -



いのちと技術の
起源に戻る

共創メンバーと考える
50年後の未来シーン

技術の進化により
人間とロボットの
境界がなくなる空間

人、ロボット、アバターの**視点が交錯し、**
「新しいいのち」の可能性を知る

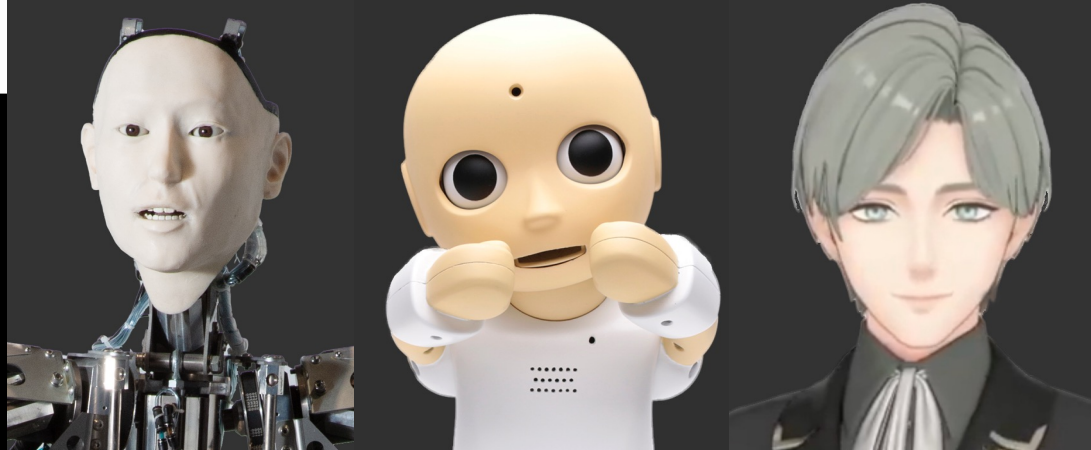
来館者は、人間とアンドロイドロボットが共に働く最先端の生活空間
の中を情報を受け取りながら、ゆっくりと通り抜けていく。
アンドロイドロボット、役者、自分が、混ざり合う空間の中で
来館者は自分についての未来を知り、迷い始める。

- バーチャル展開 -

ロボット技術 × バーチャル

バーチャルにおける**身体**の拡張
「新しいいのち」の実感

最先端クオリティのVR空間をアバターで体験。
バーチャル空間での体験とバーチャルからリアル空間への体験
の2軸展開予定。
技術と思考で自ら設計する「新しいいのち」を感じさせる。



- シグネチャーイベント -

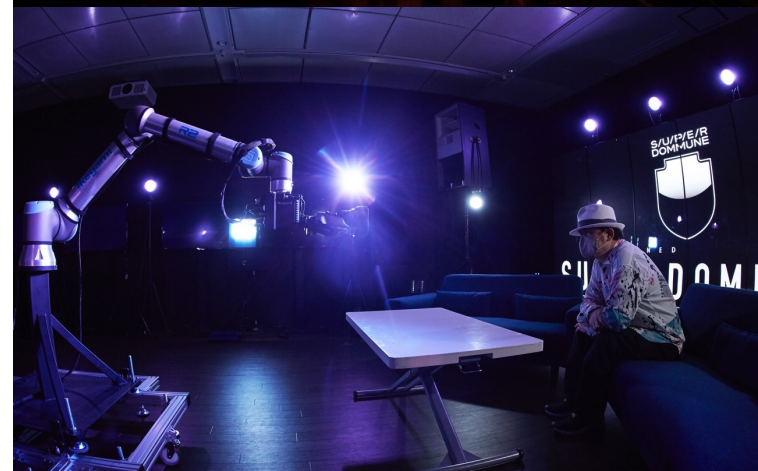
いのちの未来パフォーマンス

ロボット音楽ライブ by DOMMUNE

他多数

バーチャルとリアルを行き来する三途の川役として、
公式レギュラーライブ配信番組兼イベント。
文化とテクノロジーを世界的視座でゲストを招いてのトークパートと
企画に関連派生した音楽をDJMIXしてライブ配信。

AI×ロボットの演奏する音楽と人間がテクノロジーを操作して演奏する
音楽の混合ミュージックイベント。



- プロジェクト展開 -

いのちの未来 共創プロジェクト2025

シナリオ、技術展示への展開

パビリオン

パビリオン展示へ反映

「いのちの未来 共創プロジェクト」議論

コンテンツなどへ反映

バーチャル空間

イベント

スピンオフ企画

バーチャル空間での展開／イベントや出版への展開

石黒浩「いのちの未来」に共感して集まって頂いた企業の方々と50年後の未来を創造する共創プロジェクト。
リアル、オンラインに加え、バーチャルでアバターを使ったカンファレンスを石黒教授とゲストスピーカーを招いて開催なども予定。



- いのちを拡げる協働メンバー -



企画統括ディレクター
内田まほろ

キュレーター、展示プロデューサー。
JR東日本鉄道文化財団、高輪ゲートウェイ
シティ（仮称）文化創造棟準備室長。2020
年まで日本科学未来館勤務。シンボル展示ジ
オ・コスモスやロボット、情報、アート、デ
ザイン、ゲーム、建築、土木まで幅広い常設
展、企画展を担当。05年MoMAでの在外派
遣勤務、グッドデザイン審査委員。



建築・展示空間ディレクター
遠藤 治郎

建築家、演出家、照明家、エキシビションデザ
イナー、フェスティバルデザイナー、合同会社
SOIHOUSE代表。

建築を起点に、美術・音楽・モード・大学教育
といったジャンルを横断しながら、オランダ3
年、スリランカ1年、タイ13年を経て2016年
より東京を拠点に活動、2021年春まで日本科
学未来館専門職兼務。



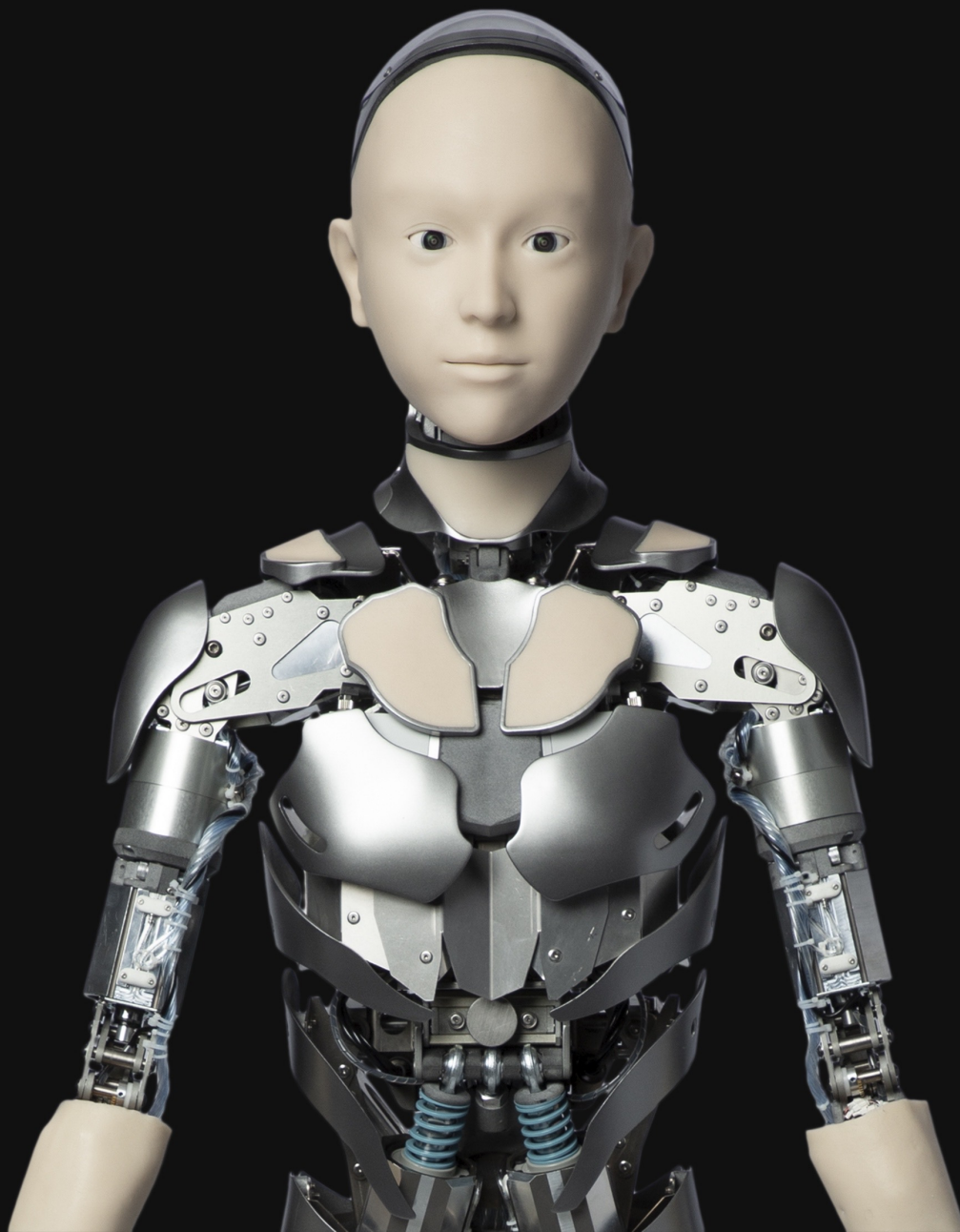
制作統括ディレクター
小林 大介

（株）パルコ エンタテインメント事業部 コ
ンテンツ担当部長。
カルチャー、アート、音楽の展示、イベン
ト企画に広く携わる。渋谷再開発における
仮囲い演出でグッドデザイン賞受賞。クマ
財団選考委員、NEWVIEW AWARDS審査
委員。



バーチャル空間ディレクター
宇川 直宏

現”在”美術家、DOMMUNE主宰。
映像作家、グラフィックデザイナー、VJ、文
筆家、大学教授など、80年代末より、さま
ざまな領域で多岐にわたる活動を行う。2010
年には、日本初のライブストリーミングスタ
ジオ兼チャンネル「DOMMUNE」を個人で開
局。記録的なビューワー数で国内外にて話題
を呼ぶ。2021年、第71回芸術選奨文部科学
大臣賞受賞。



人間はもっと、
生きたいのちを
生きられる。